

**製品名:** サイトケラチン 8 (アセチル Lys483) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab06180

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	53kDa

**抗原情報**

遺伝子名	KRT8
別名	KRT8; CYK8; Keratin, type II cytoskeletal 8; Cytokeratin-8; CK-8; Keratin-8; K8; Type-II keratin Kb8
遺伝子 ID	3856.0
SwissProt ID	P05787
免疫原	抗血清は、Lys483 のアセチル化部位周辺のヒト K8 由来の合成アセチルペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 434-483

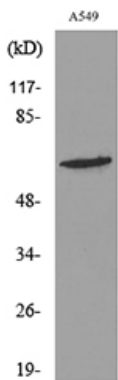
**背景**

ケラチン 8 (KRT8) ホモサピエンス この遺伝子は、12番染色体長腕にクラスター化したタイプIIケラチンファミリーのメンバーです。タイプIおよびタイプIIケラチンはヘテロ重合し、上皮細胞の細胞質内で中間径フィラメントを形成します。この遺伝子産物は通常、ケラチン18と二量体を形成し、単層上皮細胞内で中間径フィラメントを形成します。このタンパク質は細胞構造の完全性を維持する役割を果たすほか、シグナル伝達および細胞分化にも関与しています。この遺伝子の変異は、原因不明の肝硬変を引き起こします。この遺伝子には、選択的スプライシングによる転写バリエーションが見つかっています。 [RefSeq提供、2012年1月]、疾患:KRT8の欠陥は、原因不明の肝硬変[MIM:215600]の原因です。、機能:KRT19とともに、横紋筋のコスタメアで収縮装置をジストロフィンにリンクするのに役立ちます。、その他:細胞骨格ケラチンとマイクロフィブリルケラチンには、I (酸性、40~55 kDa) とII (中性から塩基性、56~70 kDa) の2種類があります。、PTM:複数の部位でO-グリコシル化されており、グリカンは単一のN-アセチルグルコサミン残基で構成されています。、PTM:セリン残基のリン酸化は、EGF刺激および有糸分裂中に促進されます。 Ser-74のリン酸化は、ケラチンフィラメントの再構成において重要な役割を果たします。、類似性: 中間径フィラメントファミリーに属します。、サブユニット: 2つのI型ケラチンと2つのII型ケラチンからなるヘテロ四量体。ケラチン-8はケラチン-18と会合します。KRT20と会合します。HCVコアタンパク質およびPNNと相互作用します。KRT19と会合すると、DMDと相互作用します。TCHPと相互作用します。、組織特異性: ジストロフィンおよびスペクトリンを含む構造において、筋形質膜のコスタメアに蓄積する筋線維に認められます。口腔内の歯肉粘膜および硬口蓋に発現します。、

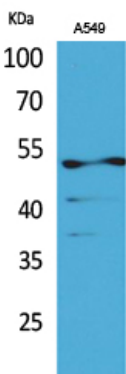
## 研究分野

シグナル伝達

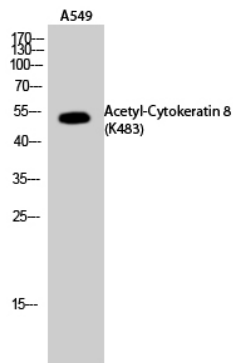
## 画像データ



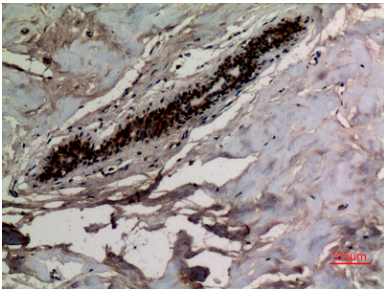
K8 (アセチル-Lys483) 抗体を用いた A549 細胞溶解液のウエスタンブロット解析。



アセチルサイトケラチン 8 (K483) ポリクローナル抗体を用いた A549 細胞のウエスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



アセチルサイトケラチン 8 (K483) ポリクローナル抗体を用いた A549 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト乳房の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された